

大分市歴史資料館

OITA CITY HISTORICAL MUSEUM

ニュース

vol.
117
2018.1.27



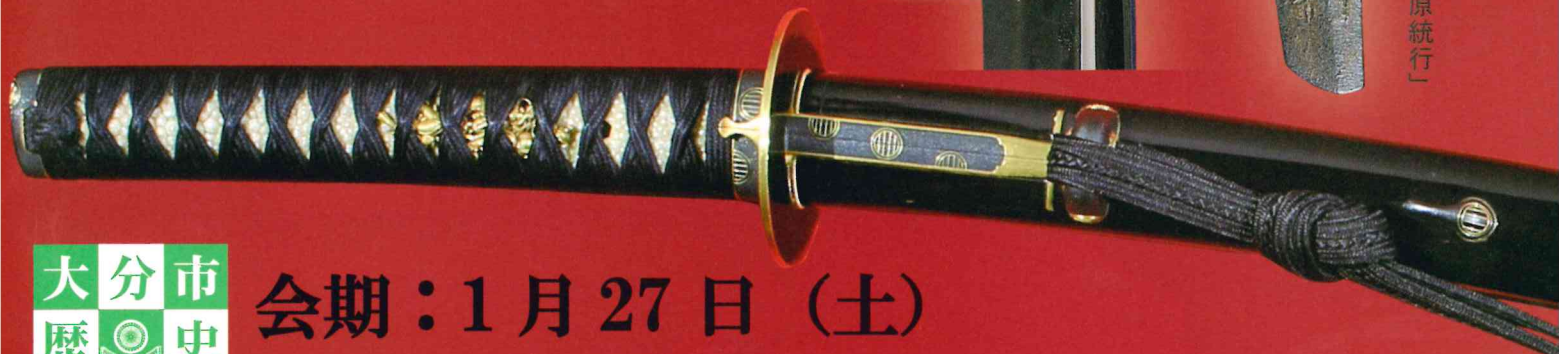
刀匠紀新太夫行平之墓地
大分市大字関園

大分の刀剣

平成二十九年度テーマ展示Ⅲ



刀銘「豊州高田住藤原統行」



会期：1月27日（土）

～4月2日（月）

大分市
歴史資料館

平成29年度テーマ展示Ⅲ

大分の刀剣

会期:1月27日(土)~4月2日(月)

今回の展示は、郷土の刀剣を歴史の流れの中でとらえるとともに、伝統的文化財としての価値を見直し、一般の方々に親んでもらうことを目的に開催します。

日本の刀剣の魅力—美しさと切れ味の秘密—

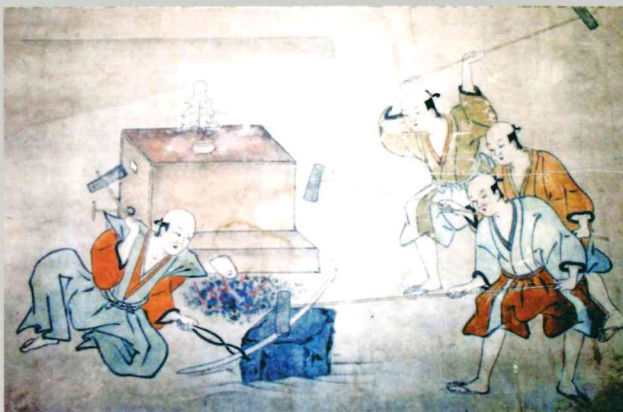
日本の刀剣の美しさは、優しい反りを持った姿かたちとさまざまな表情を見せる刃文、それらをより美しく見せる研磨によって生み出されています。また、「折れず、曲がらず、良く切れる」という実用性は「折り返し鍛錬」という独特の製法によって達成されています。千年も前から続く日本の刀剣の伝統です。

大友時代の高田刀工

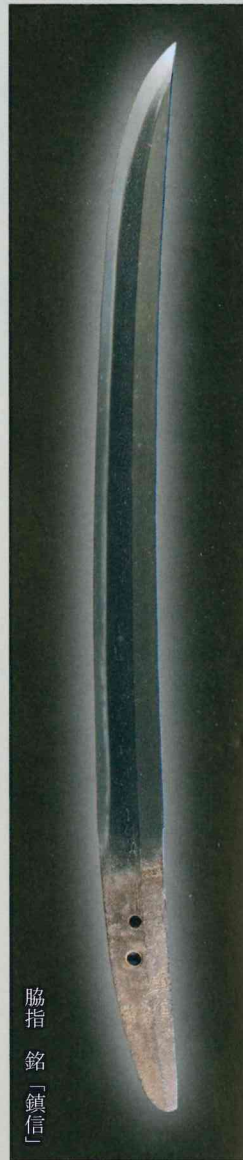
鎌倉時代、幕府は豊後支配のために大友氏を派遣しました。この時期に活躍した行平は「豊後刀鍛冶の祖」と言われています。室町時代では友行や長盛が有名です。大友義鑑・義鎮の時代に豊後高田庄(現在の鶴崎地区)での刀剣生産は一つのピークを迎えます。もちろん戦に備えるためですが、南蛮品購入の「原資」という説も有力です。義鑑や義鎮(宗麟)・義統が刀鍛冶に自分の一字を与えて作らせた刀が伝わっています。武将への褒美に使われたようです。

近世の高田鍛冶

大友氏の改易後、高田地区は肥後熊本藩の飛地として、加藤氏から細川氏に受け継がれます。このため、高田鍛冶は藩の庇護のもと江戸期を通じて栄え、新刀藤原高田の名で呼ばれます。この時期の高田鍛冶は、抱工・忠行家をはじめ六家が繁栄し、幕末まで代々続きました。江戸時代全体を通じて、420人の刀工が知られており、この数は全国第3位を誇ります。また、豊後刀は「切れ味」に定評がある実用刀としても好まれました。



三佐の岡藩刀工御前打之図(提供:甲斐敬一氏)



脇指 銘「鎮信」



大身槍 銘「藤原鎮盛」

各藩の刀鍛冶



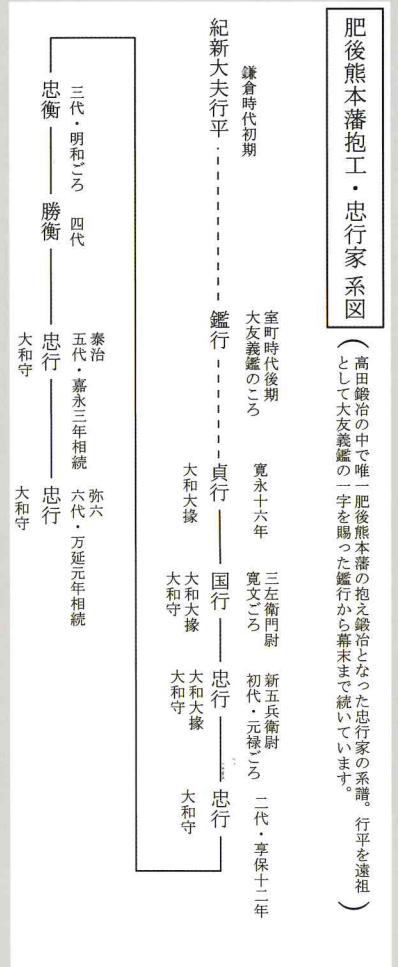
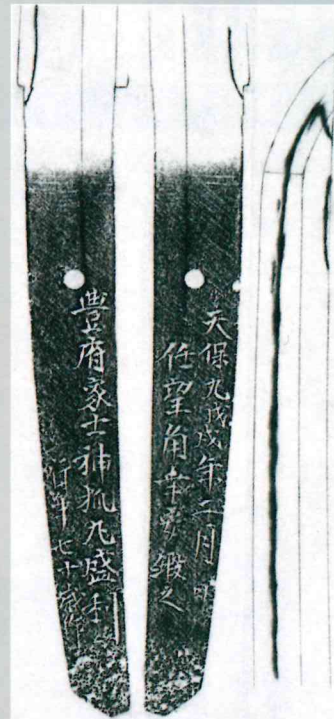
府内藩 富田鍛冶

大友時代の四ツ目鍛冶の子孫で、大友氏滅亡後第5代権兵衛吉十郎が、富田鍛冶初代権兵衛守常を名乗りました。慶長10年に新城下町ができる鍛冶屋町(現在の若草公園の南西付近)に居住。松平氏が入城して、御用鍛冶となり、府内城下の鍛冶頭として、11代まで続きました。

各地で活躍する高田鍛冶

大友氏の改易は、大集団の高田鍛冶にとって存亡の危機でした。そのような中で、伊賀名張(現在の三重県)に新しい活躍の場を求めた刀工が藤原鎮忠(慶長頃)です。ほかに、小倉藩に抱えられた藤原友行(元禄頃)や唐津藩の源本行(元禄頃)もよく知られています。

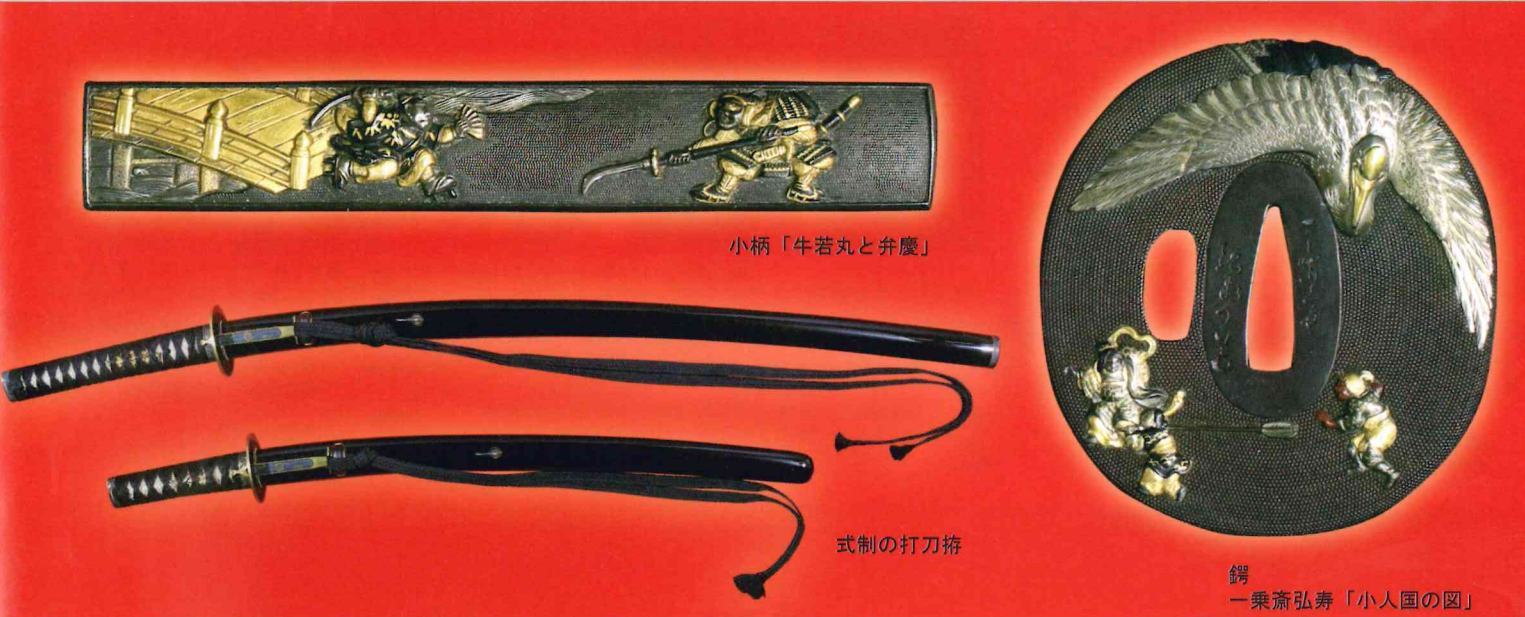
刀 銘「天保九戊戌年二月日
「豊府家士神狐丸盛利
行年七十歳作」



鳳凰頭太刀拵

刀剣の外装

外装とは刀を納める鞘及び柄などの付属品のことで、「拵え」とも言います。「拵え」はお城に上がる時は定められた様式で、町に出るときや遊びに出るとき、普段家にいるときなどには、服装やその場に応じて相応しいものを用いました。江戸時代には使われる材料も多くなり、漆工や金工技術の高まりとともに世界に誇ることのできる精緻な美術品が生まれました。



特別展記念講演会

特別展開催中の11月19日(日)、ホルトホール大分302・303会議室において、徳島県藍住町教育委員会の重見高博氏、山口市教育委員会の佐藤力氏を講師に迎え、大分市教育委員会の五十川雄也を加えた三者による、特別展記念講演会「館の構造と荘厳」を開催しました。

当日は、阿波・三好氏の勝瑞城館、周防・大内氏の大内氏館、そして豊後・大友氏の大友氏館跡、3つの戦国大名館に関わる基調講演と、大分市教育委員会の坪根伸也のコーディネートによるパネルディスカッションが行われ、参加者は117人を数えました。

講師 五十川 雄也 (大分市教育委員会)
講師 重見 高博氏 (藍住町教育委員会)
講師 佐藤 力氏 (山口市教育委員会)
コーディネーター 坪根伸也 (大分市教育委員会)

豊後・大友氏「大友氏館跡」
阿波・三好氏「勝瑞城館跡」
周防・大内氏「大内氏館跡」

パネルディスカッション
戦国大名である阿波・三好氏、周防・大内氏、豊後・大友氏、3つの大名居館を徹底比較し、戦国大名居館の謎に迫ります。

ふれあい歴史体験講座

- 定員** 各回70名程度(先着順)
時間 午前の部 9時30分～(約2時間)
午後の部 14時00分～(約2時間)



	実施日	内容	材料費	受付開始日
第15回	2月3日(土)	折り紙雛作り	300円	1月17日(水)
第16回	2月17日(土)	火起こし	無料	2月3日(土)
第17回	3月3日(土)	織物作り	200円	2月17日(土)
第18回	3月17日(土)	勾玉作り	250円	3月3日(土)

応募 上記の受付開始日より、電話にて応募ください。
(大分市歴史資料館：097-549-0880)

テーマ展示解説講座

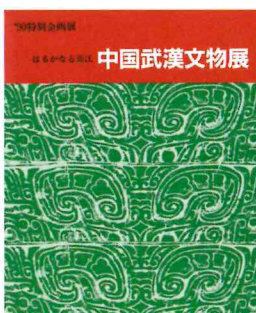
- 内容** 講座室でテーマ展示Ⅲ「大分の刀剣」の展示解説を行います。今回は、日本美術刀剣保存協会大分支部副支部長 真野和夫氏を講師に迎え、講座を行います。
- 日時** 2月11日(日) 14時～15時30分
- 参加費** 無料 ※事前の申し込みは必要ありません。

★ 上記の各講座等の参加者は観覧料が無料になります。

大分市歴史資料館30年特別企画

特別展入館者ランキング BEST20

- 中国武漢文物展 28,886人 (H2) 友好都市締結10周年記念特別展
- 市内所蔵の工芸品を中心にして 25,807人 (S62) 開館記念特別展
- 大友宗麟とその時代 13,348人 (H4) 開館5周年記念特別展
- 松平忠直 10,656人 (H19) 開館20周年記念特別展
- 森羅万象に遊ぶ 10,126人 (H9) 開館10周年記念特別展
- おもちゃの歴史 9,495人 (H1)
- 絵馬 9,074人 (S62)
- 国分寺 7,813人 (S63)
- 九州の土人形 7,189人 (H3)
- 豊後のキリシタン史 7,069人 (H1)



第1位 中国武漢文物展



第3位 大友宗麟とその時代



第4位 松平忠直

- 大分と茶道 7,046人 (H14) 開館15周年記念特別展
- 南蛮屏風の世界 7,034人 (H25)
- 偉人たちの風貌 6,570人 (H22)
- 大分どんどここんなとこ 6,538人 (H24)
- ほとけの王国 6,278人 (H28)
- 馬とのつきあい 6,200人 (H20)
- 山ん縄文と海ん縄文 6,106人 (H21)
- 威信の舞台 5,990人 (H29) 開館30周年記念特別展
- 日本犬聞録 5,963人 (H27)
- 豊かなる海 5,699人 (H12)



第11位 大分と茶道



第14位 大分どんどここんなとこ



第19位 日本犬聞録

利用案内

- 開館時間** 9時から17時(入館は16時30分まで)
休館日 月曜日 但し祝日の場合は開館
但し第1月曜日は開館し、翌火曜日が休館日
祝日の翌日 但し土・日曜の場合は開館
年末年始 12月28日～1月4日



- 観覧料** 大人200円(団体150円) 高校生100円(団体50円)
中学生以下 無料 ※団体は20名以上
※身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方とその介護者は無料。
◎入館時に受付で手帳を提示してください。



- 交通機関** ・JR久大本線 豊後国分駅下車 徒歩2分
・大分自動車道 大分I.C・光吉I.Cよりともに約15分



発行日：平成30年1月27日

発行：大分市歴史資料館 〒870-0864 大分市大字国分960-1 Tel097-549-0880 Fax097-549-5766

※大分市ホームページの「観光・魅力」歴史・文化財「歴史・文化を学ぶ」大分市歴史資料館 も併せてご覧下さい。
(<http://www.city.oita.oita.jp/>)